

博多祇園

山笠



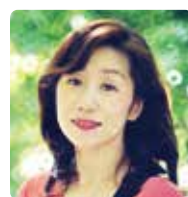
7月15日に無事奉納を終えた「博多祇園山笠」。
770年余の歴史と伝統を有し、勇壮豪快な昇き山は
見るものを圧倒します。今回は、櫛田神社公認の山笠フオ
トグラファー八田さんをナビゲーターに迎え、7月1日から
15日の追い山までの熱気あふれる15日間をたどります。

写真提供：八田公子・三啓正勝



熱血!
15日間

時々刻々



ナビゲーター
八田 公子 やっだ きみこ

博多出身、在住、櫛田神社公認、博多カレンダー
や西日本新聞社フクオカ・ビーキの撮影など
フリーの写真家。
2014年山笠の写真で二科写真展にて受賞。
福岡市美術連盟会員。

7月1日 早朝 注連下ろし

「昇き山笠の流区域を清める行事で、櫛田神社の神職が祝詞を奏上します。恵比寿流のみ、他の流より1ヵ月早い6月1日に行われます」

7月1日 朝 ご神入れ／飾り山笠公開

「飾り山笠に神様を招き入れ、山笠を神の依代とします。飾り山笠の公開が始まると、福博の街は祭り気分一色になります。昇き山笠のご神入れは6、7日頃になります」

7月1日 夕 当番町お汐井とり

「その年の当番町が法被に締め込み姿で笠崎宮・箱崎浜まで行き、お汐井(真砂)をテボ(竹ひごで編んだかご)や升に入れて持ち帰ります。お汐井は、自宅の玄関先に吊るし、出かける時に身に振りかけて清めます」

7月9日 夕 全流お汐井とり

「当番町お汐井とりと同じですが、各流の昇き手が揃い圧巻です。各流ごとに、海に向かって頭に巻いた手拭いを取り拍手を打って安全を祈願します。帰りに笠崎宮と櫛田神社に参拝します」



ご神入れ



全流お汐井とり



7月10日 流昇き

「いよいよ昇き山笠が動き出します。七流の山笠がそれぞれの区域内を走り、昇き出し時刻は午後4時から午後6時までと流によって異なります」

もひとつ、シャンシャン

よーお、シャンシャン

博多手一本！



7月11日 早朝 朝山

「早朝に町総代や旧役員を呼んで接待するところから祝儀山とも呼ばれます。当番町の子どもたちはこの日だけ山笠の杉壁の中に乗せてもらえます」

7月11日 夕 他流昇き

「11日は早朝と夕方、2回昇きます。各流の昇き山笠が区域外に出て、他の区域で疾走します。また、公共施設等に昇き入れる事も多く、東流はJR博多駅、千代流は福岡高校や福岡県庁に昇き入れます」

祝うて三度
シャシヤン、シヤン

7月12日(午後3時59分) 追い山ならし

「追い山のリハーサルで、一番山笠から櫛田入りし、奈良屋町角の廻り止め(ゴール)までの約4kmのコースを全力で昇ります。一番山笠は追い山同様、櫛田神社の境内を回った後、博多祝い唄を唱和します」



7月13日(午後3時30分) 集団山見せ

「福博の政財界で活躍する知名士や博多に貢献した人が台上がりを務めます。呉服町交差点からスタートし、福岡市役所前で折り返し、冷泉公園北西角までの約2.1kmを走り抜けます」



7月14日 夕 流昇き

「午後4時から5時にかけて大黒、中洲、西、恵比寿、土居、5つの流が流区域内を昇きます。追い山まで半日ほどですが、気力を振り絞って本番前最後の奉納をします」

7月15日(午前4時59分) 追い山

「大太鼓の合図とともに一番山笠から順次、櫛田入りをします。その後、境内を出て約5kmの追い山コースを昇き、終点の廻り止めに無事に到着すると、歓声が湧きます。追い山が終わった櫛田神社では午前6時から、“鎮めの能”が行われ、山笠は“動”から“静”へと変わります」



博多祇園山笠 | 番外編 |

博多の伝統的な祭りである山笠には紹介したもの以外にもたくさんの行事が行われています。
山笠は今も人の生活に寄り添い、息づいている祭りなのです。



夏祈禱

「博多祇園山笠の発祥の地・承天寺で6月2日に行われます。山笠振興会の役員や各流の総務が出席し、山笠の安全と成功を祈願します」

追善山笠

「流によって、しきたりや日時は異なりますが、流や町に貢献した人をしのんで、慰霊するため舁き山を自宅前などに舁き入れる行事があります。臨時に設けられた祭壇には、生前愛用していた当番法被や遺影などが飾られています」



子供山笠

「7月初めの土日を中心に子供山笠が行われます。参加するのは、博多小学校、千代小学校、新天町の3つ。大人の舁き山笠の半分程度の山笠を掛け声も勇ましく舁きます」